

## 1 美又地区の概要

美又地区は、浜田市金城町の北部に位置し江津市に接する北の玄関口で、周囲山々に囲まれた自然味あふれる地域である。地区内には、家古屋川の清流沿いに、美肌の湯で知られる美又温泉がある。農協・郵便局・金融機関・病院など無くなり、人口は281人（137世帯）、高齢化率54.1%の少子高齢化の進む中山間の農業地域である。

公民館に隣接している小学校は13年前に閉校、続いて保育所も閉所となった。

平成23年に「美又ににぎわい、ふれあいをつくっていこう！」と、美又湯気の里づくり委員会が発足し、美又温泉や農産品など美又地区の魅力を活かしたまちづくりが始まった。

## 2 事業の趣旨

地域に伝わる伝説や妖怪をキーワードに、楽しく集い！学びあい！つながりあいながら「地域の魅力を発掘、再発見」を目指したいと考えた。

地域の活動に関わる人は一部の人であり、地域活動に参加、参画する人は限られている。また、小学校が閉校になったことで、地域と保護者世代の関わりが薄くなっている。そこで、今まで地域活動に関心を示さなかった人に関心をもたせたり、主体的に活動する人を育てたりしたいと考えた。

高齢者が多い美又地区では、「できる人が、できる時に、できることを」をモットーに無理なく進め、この事業をとおして、高齢者達には、生きがいをもつきっかけをつくっていく。また、小学生や中学生の子どもたちにはふるさと教育として歴史や良さを学ぶ機会を設け、ふるさとへの愛着を育むとともに、子どもと地域をまずつなげ

ることで、保護者世代と地域をつなげる。将来的には、地域で活動するそれぞれの団体をつなげていきたい。

## 3 具体的な取組内容

### (1) ふるさと地域探検隊

美又地域に伝わる「伝説」や「昔話」、「地域遺産」「地域の魅力」を文献や地域住民から聞き取り調査を実施。また美又地域の伝説などのイラストを描いておられる佐々岡さんにも話を聞いた。また、調査に携わった地域の方に講師になってもらい、島根県立大学の1年生と3つのコースを（①妖怪ポイント②歴史的建物ポイント③温泉と温泉周辺ポイント）を歩く地域探検を行った。地域内を歩いた後、地図上に大学生が感じたことを、外からの目線で感想や意見を出してもらったことは、地域にとっても新しい気づきとなった。

### (2) おさんぽ歩数マップ

おさんぽ歩数マップを作成するためにふるさと地域探検隊で調べたことを活用し、歩数を測りながら2つのコースのウォーキングを実施した。ウォーキングをしながら、地域の言い伝えや、幼少期の体験談などを話しながら楽しく交流ができた。このマップは、スタートから各コースポイントを、歩数で表すのが特徴である。今回、参加者のみなさんの歩数の平均歩数をマップに掲載し作成した。

### (3) 石見の妖怪カルタづくり

佐々岡さんの「石見の妖怪絵図」をもとに、今福小学校3年生14名が読み札を作成。今年度はまず14枚の読み札を作成した。活動にあたり、児童達が「わくわく」楽しみながら取り組めるように、佐々

岡さんとの出会いを大切にしました。イラストを見たり話を聞いたりした児童達は、その世界にぐっと引き込まれた。読み札作成の他に「美又の妖怪がいそうな場所探検」や佐々岡さんの指導のもと、イラストを描く活動に興味をもって体験できた。体験したことを児童が家庭で話をするこゝで、この取組が保護者ともつながることとなった。

#### (4) ふるさとのことを知ろう学習会

美又に伝わる伝説や妖怪について、知ってもらおうための学習会を開催

対象：地域住民

美又温泉旅館で働く方

講師：下村氏「妖怪の歴史について」

佐々岡氏「ふるさとの妖怪」

美又に伝わる伝説や言い伝えなどの話を初めて聞く方もおり、佐々岡健次さんが描かれたイラストの場所に行ってみるなど感想が聞かれた。

#### (5) 大根干しプロジェクト

美又地域では大根干しのことを「肛門干し」と言うことを地域住民から聞き、美又の伝説「美又の肛門」と関わりをもたせ、大根干しを地域で作ろうと考え、地域の高齢者に呼びかけて集まってもらった。閉校になった小学校の畑を利用し、畑の整備、土づくりからスタート。この中でリーダーになるキーマンが生まれ

「できる人が、できることを、できる時にしよう」ということで、それぞれ役割分担をし、得意な事を発揮できる場づくりができた。「一人ひとりでは大変なことも、仲間同士でするのは楽しくできるね」と仲間同士声を掛け合いながら楽しく活動できた。



主体的に大根干しプロジェクト  
に取り組む方々

4 評価と成果

・「伝説」や「妖怪」をキーワードにしたことよゝて、地域全体が楽しく協力し合おうとするきっかけづくりができた。

・事業ごとに企画会を開いたことで、地域活動に関わろうとする人が増えた。また、中心となって動き、周りの人を巻き込んでくれる人が現れた。

・小学生が、地域について学んだことよゝて、行ってみたい！もっと知りたい！という思いを持ち、ふるさとへの愛着を育むきっかけづくりができた。また、小学校で体験したことを児童が家庭で話すことよゝり、保護者世代が関心を持つきっかけとなった。



「伝説」「妖怪」をキーワードに学び合いました。

#### 5 今後の課題と見通し

・おさんぽ歩数マップを活用したウォーキングを行うことで、ふるさとに愛着を持つ子どもや大人、地域の人が増える。

・石見の妖怪カルタを活用して、小学校や公民館等でカルタ大会をして親子や異世代交流することができる。

・温泉旅館街や周囲の農業地域、それぞれで妖怪や歴史ある場所を活かす行動が期待される。

将来的には、子どもや保護者世代から高齢者までの地域住民が、ふるさとへの思いでつながり合い、積極的に地域活動に参加したり、参画したりして、地域が一丸となる。さらに、地域のまちづくりを支える各種団体もつながり合うことよゝて、美又地域の活性化が実現する。

(文責：主事 渡辺 紀美枝)